

2008 年

9 月 3 日（水曜日） - 生かし生かされ、ますます生長を始める -

京丹後市では、平成 18 年 10 月から、丹海バスさんと一緒になっていわゆる「上限 200 円バス」（詳細は「上限 200 円バス市内全域へ拡大」をご覧ください。）の取り組みを推進していますが、順調に推移した 1 年目を受けて昨年 10 月に市内全域に実証運行を拡大してから約 1 年近く経過しました。この間も前年同月対比（本年 7 月末まで現在）の乗車人員ベースで 1.3 倍前後、収益ベースでも 100% 以上を連続確保するなど、引き続き好調を続けていただいています。本日、第 6 回の「京丹後市地域公共交通会議」を開催し、この 1 年間の実証運行の状況報告とともに、本年 10 月からの新たな実証運行の内容について報告・検討をいただき最終的な了承をいただきました。

この 10 月からは、新たに網野町中心部や峰山町ショッピングセンターへの乗り入れ、小学校・病院への通学・通院への便宜向上、利用時間帯に応じたダイヤ調整等を行うこととし、これにより、市民の足としての利便性の一層の向上と公共交通空白地域の解消等にいよいよ貢献することとしています。

そもそも、この上限 200 円バスについては、誕生の経緯として、一部の路線で極端な言い方ですが「恰も空気を運んでいる」と当時言われるほど利用者が少なくなった状況にもかかわらず地元行政として年間全 8 千万円以上もの助成を継続的にせざるをえない事情がこれまでであったわけですが、そんな事情の中で、行政助成等の負担を最小化するため絶えず効率化に努めながら、同時に、いずれもし住民の公共交通福祉のためには行政として一定の助成負担が避けられないのであれば、いかにしたらそれが最大限に「生きたお金」となるのか、まずはその工夫をしていこうという視点が私達の検討の出発点でした。その中で、ある路線で最高 700 円の運賃区間の平均乗車人数が 1~2 人という状況を例に同じ 1,400 円の収入であっても、「700 円で 2 人の利用より、200 円で 7 人の利用を」という考え方が、最大限「生きたお金、生きた負担」にしていく象徴的なスローガンのように出てきました。

上限 200 円バスの取り組みは、このように、いわゆる効率化のための取り組みというより、一義的には、一定の負担を前提にして住民福祉の極大化のためにこれをどう最大限に生かせるかということを目指した取り組みであります。そして現況、"よりたくさん利用者の皆さんが、より安い料金で喜んで乗っていただき、そして会社の収入も増え、行政の負担もかえって小さくなった"というとても嬉しい状況の中にかがえまますように、この取り組みを通じて、利用者住民の皆さん、バス会社の皆さんはじめ多くの皆さんに、より喜んでいただけるようになりました。いわば「生かして生かされた」。

この取り組みは、何より、大勢の住民の皆さんに、とりわけ高校生の皆さんには生徒会等でも利用推進に取り組んでいただいたり、丹海バスの皆さんにはサービス向上や運

行の効率化も大変積極的に進めていただいたり、"私達の大切なバスを守ろう"という大勢の住民、丹海バスさんはじめ関係者の皆さんの真摯な愛情によって支えられており、心から感謝と敬意を申し上げます。そして本年3年目を迎え、さらに一層の住民福祉の向上にむかって、求心力を重ねます自ら大きく生長しようとしています。

今後とも、私達として、このような順境のときにこそかえって十分な反省を加えることを忘れることなく、今回、改めて学びつつある「生きたお金、生きた負担」への視点、「生かして生かされる」という理(ことわり)の理力の大切さをしっかりと座右に戴き、皆の力で心を合わせてこの取組みを引き続き着実に支えていきたい。